

手賀沼にもあったヒロハノササバモ

角野康郎

千葉県印旛沼に産するササバモとガシャモクの雑種を2型認め、インバモ及びヒロハノササバモと名付けて先に報告した(植物分類地理 34:51-54, 1983)。ところが、現在新潟県在住の伊藤至氏より、以前に千葉県手賀沼で採集した植物を栽培しているが、この雑種と同じものではないかと標本が送られてきた。

写真に示すように、この植物はササバモにしては明らかに葉柄が短かく、私が新雑種として報告した植物と特徴が一致する。かつて手賀沼にはササバモ、ガシャモクともに多産していたというから、両種の雑種が生じていたことは十分に考えられる。茎の断面を鏡したところ、中心柱の中央部に2本の維管束が認められたことから、これはヒロハノササバモ *Potamogeton inbaensis* nm. *pseudomalaianus* Kadono と同定した。

(神戸大学教養部)

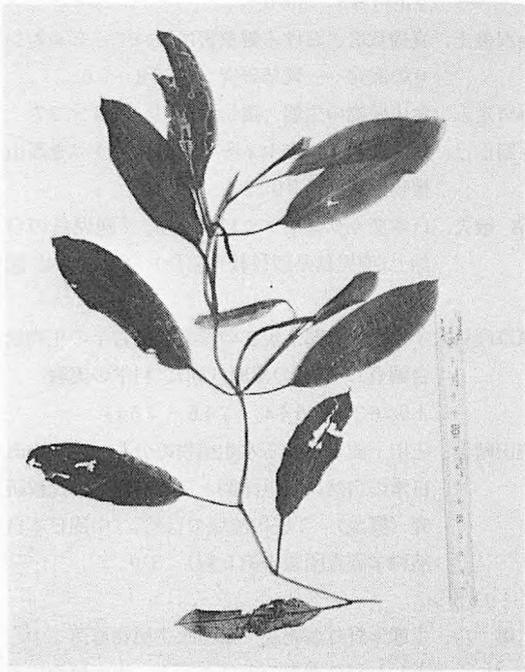


写真 手賀沼に由来するヒロハノササバモ(伊藤 至 No.24884)

水草の奇形二題

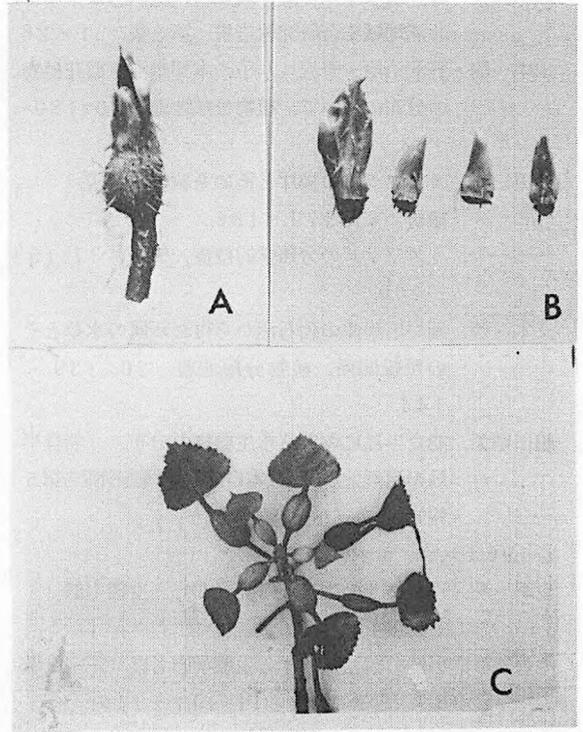
角野康郎

(1) オニバスのがく片の先祖返り

栽培中のオニバスの花の中に、4枚のがく片のうちの1枚が“葉”に変化しかけたものを見つけた(写真A、B)。がく片や花弁が葉の変形したものであることはよく知られているが、このような奇形を見ると、あらためてその事実に納得がゆく。

(2) ヒシの浮のう

ヒシの葉柄の浮のうは生育状態によってさまざまなふくらみ方をするものだが、奇妙なふくらみ方をしている個体を見つけて写真に撮った(写真C)。同じ池の中でも他の個体の浮のうは“正常”で、この個体のものだけが異常にふくらんでいた。1983年9月23日、兵庫県三木市口吉川町の産。



○会報のバックナンバーは1部500円(送料事務局負担)です。御入用の方は事務局まで御申し込み下さい(但し、No.1-なし、No.2~4-残部僅少)。